

2021 年 1 月

GTR 院生企画 “GTR Chemistry Workshop 2020” 活動報告

報告者 坂井 美佳

【開催概要】

企画名：GTR Chemistry Workshop 2020 ～オンラインの今だから聞きたい研究人生～

開催日：2020 年 12 月 7 日（月）

プログラム： 10:00-10:10 開会挨拶
10:10-11:40 講演会 1, 2（午前の部）
11:40-13:30 昼休み
13:30-15:00 講演会 3, 4（午後の部）
15:10-15:20 小休憩
15:20-16:30 パネルディスカッション
16:30-16:40 閉会の挨拶

会場：Zoom を利用したオンライン開催

講演者：森本淳平 氏（東京大学大学院工学系研究科 化学生命工学専攻 講師）
千葉俊介 氏（南洋理工大学理学院化学生物化学科 教授）
羽毛田洋平 氏（立命館大学 生命科学部応用化学科 講師）
成田明光 氏（沖縄科学技術大学院大学 有機・炭素ナノ材料ユニット 准教授）
（講演順）

参加者：理学研究科，工学研究科の有機化学分野の学生，教員を中心に 100 名以上
有機化学分野以外からの登録および参加 10 名程度

企画者：戸谷充寿（理学研究科物質理学専攻 博士後期課程 2 年）
上岡史人（工学研究科有機・高分子化学専攻 博士後期課程 1 年）
上田彩果（理学研究科物質理学専攻 博士後期課程 1 年）
坂井美佳（理学研究科物質理学専攻 博士後期課程 1 年）
藤木秀成（理学研究科物質理学専攻 博士後期課程 1 年）

後援： 名古屋大学卓越大学院プログラム
トランスフォーマティブ化学生命融合研究大学院プログラム

【企画の目的】

多様な分野で有機化学を先導する研究者の講演を通して、各分野の基礎から応用まで理解を深めるとともに、自分自身の研究を見つめ直し洗練する機会を提供することを目的とした。特に、自分の分野と少し軸足の異なる分野の講演を聞くことにより、知識の修得に加え、自分自身の研究やアイデアがどのような立ち位置にあるかを捉える機会となり、独創性および今後の研究の方向性を明確にするきっかけを提供することができる。

学術的な講演にとどまらず、様々な経歴を有する講演者の経験談や考え方などを知る機会として、講演会とは別にパネルディスカッション形式のセッションを設けた。コロナ禍でのオンライン開催にあたり、休憩時間、懇親会でのコミュニケーションが困難である中、新たな方式を模索したものである。多角的な視点や考え方を通して、自分自身の研究や考え方を見つめ直し、新たな可能性の模索や価値観の創造、進路決定につなげていくことをねらいとした。

【企画の内容、当日の様子】

講演：学生による講演者紹介、発表 25 分、質疑応答 15 分の計 40 分を予定していたが、発表、質疑応答ともに盛り上がり予定時間を超えての充実した議論となった。各講演者には、最新の研究結果に加えて、研究分野の背景や着想に至った契機についてもお話いただいた。質疑応答には、Zoom の挙手機能およびチャット機能を用いた。学生からの質問のみで質疑応答の時間枠が埋まる程であり、時間外までチャット入力により活発な議論があった。「発表内容に対して最も良い質問をした学生」を各講演者に出していただき、4 名の学生にベストディスカッション賞を授与した。

パネルディスカッション：参加者から事前募集した質問について、予め講師の先生方にひとこと回答いただくようお願いした。当日はそれらの回答をもとに、より詳細にお話いただいた。講演を依頼した先生方の経歴は、分野の異なる多数の研究室を異動した方、海外ポスドク経験者、海外研究室を運営するトップ、企業での職務を経てアカデミックの世界へ戻ってきた方など多岐にわたっていた。一つのトピックや質問に対して 4 名の研究者全員から回答をいただくことで、それぞれ異なる視点からの考えを比較しながら聞くことができた。

- 研究を効率よく進めるために意識していたこと、研究が行き詰まった時に意識していたことはなにか。
- 後輩(学生時)や学生の指導で大切にしていることはなにか。
- 今の自分を語る上で外せない、学生時代の経験を教えてください。
- 進路選択の時に、重要視したことはなにか。
- 研究を通しての将来の夢を教えてください。

【まとめ】

本企画により、学術的観点と研究者像の双方から、学生に自分自身の研究と向き合う機会を提供することができた。参加者からは、自分の研究分野とは少し軸の異なる研究講演を通じて、研究に対する新たな視点や価値観を獲得することができ、各分野の最先端に触れることで研究意欲が活性化したとの声がきかれた。新たに設置したパネルディスカッションでは講演者の経験談や考え方などを詳しく聞くことができ、活発な交流機会となった。

オンライン開催であることから、従来型に加え、多研究室多数の教員、学生の参加を受けることができた。また、企画側の学生にとっても、オンライン形式でのセミナー運営を学ぶ有意義な機会であった。

最後に、本企画開催にあたり、ご支援いただいた皆様に心より感謝申し上げます。

